

刈谷市  
歴史の小径  
れきしのこみち

井ヶ谷 編

井ヶ谷西  
散歩ルート



1 深興寺 【しんこうじ】

寺伝によれば、永正7年(1510)、広沢の丘陵(現在の愛知教育大学)に建てられた寺院である。永禄3年(1560)桶狭間の合戦の際に今川氏の兵糧基地にされたため、戦火にあい焼失。現在地に再建された。



深興寺

2 遊心寺 【ゆうしんじ】

寛正2年(1461)に天台宗の寺院として開山、のちに浄土宗に改宗したと伝わる。元龜2年(1571)織田信長によって焼き討ちされた比叡山から「毘沙門天王」が運び出され、その後この寺に祀られたという。ポックリ寺としても知られる。毘沙門天王像は市指定文化財。



遊心寺

3 八幡宮 【はちまんぐう】

井ヶ谷の氏神である菅田別命ほむたわけのみことを祀る。創建年は不明であるが、入口には神仏習合の神社に多い両部鳥居が用いられている。



八幡宮

4 見性寺 【けんしょうじ】

曹洞宗の寺院。永享10年(1438)鳴海町瑞泉寺三世劫外乗空和尚によって開創。一時衰微したが、安永2年(1773)法雲円海和尚によって中興され、月舟宗胡禅師の法系により伝承されている。伽藍がらんは古い建物が多く、特に鐘楼堂かねむらじは近隣ではまれな袴腰はかまこしの重層入母屋造りいりもやである。



見性寺



# 刈谷市 全域マップ

井ヶ谷  
西 東



QRコードをお読みいただくと、刈谷の地図と周辺の史跡が表示されます。

※QRコードはスマートフォンでの登録が推奨です。

## 井ヶ谷 いがや

井ヶ谷地区はもともと池沼が多く、「いぐさ」が自生していたことから「藺が谷」と呼んだとされ、現在の地名になったといわれている。応永16年(1409)の「熊野檀那職譲状写」に「重原本郷井加屋にしさかい」とあるのが、井ヶ谷の地名の初出である。

## 刈谷市歴史博物館

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1  
TEL: 0566-63-6100 FAX: 0566-63-6108  
<http://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>

お問い合わせ

2022.03



# 井ヶ谷東 散策ルート

### 2 洲原池 【すはらいけ】

江戸時代に侵食谷をせきとめて築いた灌漑用のため池で、面積は約16haあり、刈谷市内で最も大きな池である。池の守護として祀られた洲原神社にちなんで洲原池と呼ばれるようになったと伝わる。

### 3 洲原神社 【すはらじんじゃ】

洲原池の守り神として建てられたと伝わるが、由来は不明である。言い伝えの一つには、度重なる堰堤の決壊に悩まされた住民が、五穀豊穡・雨乞の神として美濃国洲原神社(現岐阜県美濃市)から勧請したのが始まりとある。他には刈谷藩主土井利徳創建の説など、由来には諸説あり確証を得ることは難しい。



洲原神社

### 4 井ヶ谷古窯群 【いがやこようぐん】

刈谷市の北部から豊田市の南西部には、古代から中世にかけての古窯が77基発見され、井ヶ谷古窯群と呼ばれている。そのうち31基が市の指定史跡となっている。井ヶ谷古窯群の中で最も古い時期の窯は8世紀後半のもので、9世紀前半頃に最盛期を迎え、9世紀後半から11世紀にかけて衰退していき、13世紀前半に生産終了となる。



井ヶ谷古窯群出土品

### 1 小堤西池 【こづつみにしいけ】

小堤西池は井ヶ谷町にある面積20,330㎡の灌漑用のため池で、カキツバタをはじめとする水生・湿生の植物が数多く自生しており、昭和13年に「小堤西池のカキツバタ群落」として国の天然記念物に指定された。

日本三大カキツバタ自生地の一つである。(カキツバタの見ごろ/5月中旬～)



小堤西池